
CLANNAD 岡崎と春原

ゆきくま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C L A N N A D 岡崎と春原

【Zコード】

Z5796F

【作者名】

ゆきくま

【あらすじ】

アフターのネタバレが入っています。見る分には、注意してください。岡崎が春原の寮にくるお話を

「春原」

急に、誰かから名前を呼ばれた気がした。

ボーッとしていたので、はっ、と田を覚ます。

「」の声は…

…ああ、会社の上司だ。

そう思つてゐる途中にも、上司は春原春原と僕の名前を連呼している。

何だろ？ いやんと書類は提出したはずなんだけど。
僕は廊下から上司のいる玄関ホールに向かった。

「なんですか？」
すこし畏まつた声。

「春原」

上司が口を開く。

…へやー。

歯磨きをしないのが、上の上回はものすいへ口がへや。黒でし
なく。

まあそんなことを言えば、即効クビになるので顔こなれなことう
にしてこう。

僕は口をつむぎ、息を止めた。

「はー」

息を止めて喋るのは案外難しい。

一步間違えばあのくさい臭いが漂ついてくる。

「春原、来客が来てるぞ」

上司がくい、と親指で玄関の方を指す。

「……」

「……え?」

思わず口を開けてしまつ。

……ああ、臭つちやつたよ。

「よつ。春原

「……」

田の前に立

「元気そつだな

……岡崎がいた。

「……」

「なんだ、感激すぎて声も出ないのか

「……岡崎、だよな？」

「ああ、当たり前だろ」

……びっくりしそぎて、しばらく声がでなかつた。

渚ちゃんの出産前に渚ちゃんと岡崎に会いには行つた。
が、まさか岡崎の方から出向いてくるとは思いもよらなかつたので…

この状況を把握するのに何秒か時間が必要だったんだ。

「旅行で、一度この近くを通ったんだよ」

岡崎が言つ。

「旅行つて…、渚ちゃんと…？」

「ああ。汐も一緒にだけど」

「汐？」

聞きなれない名前に首をかしげて考える。

「…ああ。おまえと渚ちゃんの子供？」

「まあな

…その2人と来ていると言つていたが、2人の姿は見当たらない。
「で、2人はどこにいるの？」

「渚と汐は近くの下宿先で休んでる」

「そつか

「車で移動したからな。すっげー疲れたよ。…汐が、どうしてもつ
ていつからさ」

「……そつか

「岡崎」「…」

…と、口から出かけた言葉を、つむぐ。

「なんだよ？」

「……いや…、ん…、なんてこつかせ…、」

「なんだよ。早くいえよ」

「……おまえも、本当に父親になつたんだなつて思つても
ぜつと、本当にぜつと呼べ。」

「え……」

「まあ、な

「……」

ふいに岡崎が、神妙な顔つきで僕を見る。

「……なに?」

聞いてみる。

「……別に?」

「……あつた

まじまじとした顔を続ける岡崎。

「……」

2人、お互いをじっと見る。

「 「……つぶ！」」

2人同時に、僕達は吹きだした。

：そして。

僕達は腹を抱えて、大笑いする。

わけが分からぬけど、どんどん笑いがこみ上げてきた。

初めて岡崎と出会ったあの日と今日が、重なる。

……岡崎も同様なんだろう。

息が苦しくなるほど大笑いする。

岡崎も僕も、絶え間なく笑い続ける。

…本当に、誰かが止めに入らなければ永遠に続きそうだ。

今日も、明日も、何年でもずっと…。

僕達はこつまでも……

「朋也くんっ、様子を見にきたんですけど、朋也くん、春原さん？」

ふいに、女人の声が聞こえた。

血脉と回世代へりこだと思ひ。可憐りしこ姫。

… よく、闇を覚えのある姫だった。

「まあ。なんぞぱぱとのひと、すうとねりこあつてゐるの？」
次いでちひるやこ子供の帳。

「ハーン、分かつません。えりしてでしょうか？」

うんりんと首をひねる女性と子供。

… 可憐らしこ光景だつた。

「… でも。」

女の人気が口を開く。

「うふ？」

「… 2人共、ひとつも楽しむひどくねり」

「うふー。」

笑つ
て
い
る

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5796f/>

CLANNAD 岡崎と春原

2010年10月19日14時13分発行